

# ちょぼら

No. 8  
(2005.11)

みんなで・楽しく・気軽に  
ちよっとずつのボランティア



高齢者学級でボランティアについて語るボラ連会長とグループ代表

## おはなし ほっとたいむの紹介

代表 阿部 真由美

2000年4月に発足、メンバーは7人で発足当時から変わっていません。私達の活動は小学校や図書館での読み聞かせ、子供会、ミニデイ等のお手伝い。そして最近では図書館でやっている子育て支援でのファーストブックのお手伝いも頼まれる様になりました。ファーストブックとは、乳児の時から本に親しみ、本を媒体にして親子のスキンシップをより深いものにするといった活動のことです。

私達のモットーとしては無理をせず長く続けてゆくことが大事と考えています。そしてみんなで夢育をしましょう。

これからも「おはなしほっとたいむ」をどうぞよろしくお願いします。

コーヒーでも飲みながら私達と一緒に楽しんでみませんか！



## 子育てネットワーク研修に参加して

めだかの楽校 高尾 和恵

篠栗町での子育てネットワーク研修に参加した。少子化のいま「いろんな活動を知ろう・共に考えよう・つながろう」がその趣旨である。

まずは地域も規模も内容も様々な八つの子育て支援グループの取り組みの発表、そしてその成果と今後の課題について熱く意見が交わされた。

子育て当事者が大半の中、特に注目は大学生のグループであった。経験もなく費用も時間も制限され、活動は主に子供達の遊び相手。しかし、行政や他のネットと連携し、大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんとして出来ること（肩車とか・・・）から楽しく取り組まれる様子は常に子ども主体で、子育て支援の原点だと感じられた。また、今時この年頃で子供の面倒を見ようとは頼もしい。

顧みて我が大刀洗。今回の会場を見回して、“孫の為”参加は我々の町だけ。せからしくも？ 有難い、おばあちゃん、おじいちゃん育児の出番を期待したい。

そしてこの町で子育てしてよかったと各々が実感出来るために私たちにやれることは、何だろう？

宿題だそうである。

平成17年9月18日(日)・19日(祝)の両日、春日市のグローバープラザにおいて、「●ボランティアのつどい ●子どもすくすくフェスタ ●日本・親子の絆プロジェクト in ふくおか」が行われました。参加された方に感想をいただきましたのでご紹介します。

## ボランティアセミナーに参加して おはなし ほっとたいむ 徳田 はる枝

先日、ボランティアセミナーに参加させて頂きました。

20周年という大きな大会で、二日間に亘って行われました。

その中で、一番心に響いたのはアグネス・チャンさんの特別講演でした。香港での子供の頃の話から、娘の時、妻になり母となった現在に至るまでの人生の歩みを色々なボランティアの活動経験を交えて、笑いあり、ちょっぴり涙ありで話して下さいました。

その話の一つに、今は日本は飽食と言われ続け夜中のコンビニで捨てられる弁当の多い事、一方アフリカでは一日一食すら食べられず死んでゆく子供達の現実。胸が苦しくなる思いでした。

午後は、ボランティア活動の現場から事例発表が行われました。その後、ボランティアに詳しい加留部貴行さんや、早瀬昇さんの講演が行われ、NPOと行政・企業についての共働の在り方や、これからのボランティアはどうあるべきか、と言った専門的なお話がありました。

1日しっかり勉強させて頂いて感じたことは「してやってる」ではなく、「一緒に行こう」「一緒に進もう」の気持ちが大切なのだと言うことです。

「みんなちがって、みんないい」・・・金子みすずさんの思いですね。

## ボランティアとは何なの？ ボランティアセンター運営委員 川野 博

ボランティアは自由意志で有料・無料でお手伝いをする事だと思っていました。

先日、春日市のグローバープラザでアグネス・チャンさんの話を聞くことができた。

世界の貧困国でのボランティアをされた話で、内乱で住む家も食料もなく、親兄弟とも別れて、生きる希望のない国の人々に、医薬品、食料、衣料を持って、ボランティアとして現地の人々に接し、日本では想像もできない話だった。

ボランティアとは使命感なのか？ 自由意志だけでできることではなさそうだ。

9月下旬の毎日新聞の記事の一部だが、東京の小平市に「いっぷく荘」というアパートができた。1階が診療所とデイケアセンターで、2,3階が住居部になっている。

「痛みや苦しみ孤独という荷物を降ろしてちょっと“いっぷく”しませんか？」

これが名前の由来。新しい生き方の提案、他人とでも縁あって助け合い支え合う、そんな暮らし方が広がれば、これもボランティア。

一人暮らしに慣れれば予想外のことがありそう・・・食べるほうの口はなんとか大丈夫。

話すほうの口が、話し相手がおらず、さみしさで落ち着きがなく、家の中に閉じこもる。

口は2つ。「話し相手の口」・・・このボランティアなら自分にも何とかできそう！

# わかば大学(高齢者学級)に参加して

大刀洗町ボランティア連絡協議会 会長 四ヶ所 啓二

「みんなで・楽しく・気軽に ちょっとずつのボランティア」をテーマにシンポジウムが開催され座長役と「めだかの楽校」の活動発表とを行いました。

最初に、町のボランティア連絡協議会立ち上げの経過と現在の活動状況について報告させていただきました。平成13年に協議会を発足させボランティアの輪を広げ多くの方に参加してもらえるような組織にしたい思いで現在は12団体1個人の145名の方が活動されたいです。私たちは、この輪がもっと大きく広がり一人一人ボランティアの時が来るのを期待しています。お年寄りに出来るボランティアとは・・・子どもたちの登下校時の声かけ・・・これも大きなボランティアです。テーマにあるように楽しく行うのがボランティアです。

最後に「わかば大学」の皆さんの熱心な受講には感心しました。この機会を与えて戴き、少しでもボランティアのことを理解してもらった皆さんに心より感謝いたします。

わかば大学代表 山隈 中島 誠

わかば大学高齢者学級で、町内でボランティアを行われている団体の各代表者の方から長年の活動体験からの発表がありました。大変感動し、身にしみこむものでした。これから第二の人生に取り組む大切さが強く心に残りました。

わかば大学受講生 下高橋 堀内 アイ子

町のボランティア活動の先駆者の方々の具体的なお話を聞き、ボランティア活動なるものがはつきりした思いです。ボランティア活動は人のためでなく自分のため「楽しく気軽にちょっとずつのボランティア」活動を目指したいと思います。

## “ちょぼら” 地域特派員募集

皆様の地域での小さなボランティア、ちょっといい話などを取材して記事を書いて下さる方、または情報を提供して下さる方を“ちょぼら地域特派員”として募集しています。  
大刀洗町ボランティアセンターまでご連絡ください。



ボランティア活動に関する情報、ご意見、ご感想やお問い合わせは、

「大刀洗町ボランティアセンター」まで

TEL: 0942-77-4877

FAX: 0942-77-4877

## 編集後記

今年10月に介護保険が改正され介護施設に入所されている方の食費と居住費が自己負担になりました。来年4月には更なる改正が予定されています。フォーマルなサービスが縮小されて行くこれからの時代においては、インフォーマルなサービス、特に地域のボランティア活動が期待されるのではないのでしょうか？

だからといって、気負わず、気軽に、楽しみながら自分にできることを長く続けて行ける。そんなボランティア活動を皆さんと一緒に見つけて行きたいと思います。(M. T)

スマイル



代表 戸塚 幹 栄  
福村 宮 生  
福村 地代 充  
川端 好 江

編集スタッフ